

女川町復興まちづくり住民説明会（御前浜地区） 議事録

日 時：平成 24 年 1 月 17 日（金） 13：00～14：30

場 所：御前浜分館

対象者：御前浜地区住民(38 名)

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、一宮技師、神山事務員

議会事務局長、水産農林課長、企画課長、町民課久坂氏

大日本コンサルタント 橋本（淳）

協和コンサルタンツ 首藤、松川

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 赤間室長、大日本コンサルタント 橋本（淳）

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- A.（町長より補足説明）御前浜地区は、中心部への移転を希望している人も多いと聞いているため、中心部の説明もしたい。中心部では荒立、内山、宮ヶ崎地区を先行復興エリアと決めている。また、陸上競技場のところに集合住宅形式の災害公営住宅約 200 戸を建設する。まずこれに手をつける。一番早くできるのは陸上競技場エリア。しかしここだけでは全員の希望を満たす戸数が供給できない。もしかすると御前浜で希望した方が早く再建できる可能性がある。説明会も今日が終わりではない。A 案、B 案どちらか考えて頂きたい。また、下の土地は住宅以外の使い方はできる。こちらについてどのような使い方が良いか、考えてほしい。防災集団移転を使うと利子が補助として出る。返済が楽になる。土地の価格については、宮城県で代表的な地点の鑑定することが決まった。いくつかの地点について将来像をもとに鑑定する。明日、新聞に公表される。今後も改めて詳細の話を詰めていきたい。

- Q. 公営住宅を建設の場合、払い下げができるとの説明があったが、払い下げに国からの補助金は出るのか。
- A. 現段階では払い下げに補助金は出ない。公営住宅は国費で建てるため、国費の返還が必要となる。
- Q. 説明よくわかった。よく考えて決めたい。2点質問だが、女川に住み続けるためには離半島部の魅力を活かしながら、やっぱり仕事が重要。海の養殖施設をやるとか、もっとスケールアップして、養殖から検査・分析するようなことを特区、民間も巻き込むなどして、20～30人雇えるような事業を起こしたらいいのではないか。人が集まってくる。これが1点目。
- 2点目は、漁港の道路について。国道398号は今、通行しにくくなっている。緊急時に避難するための道路としてこれでいいのか。原発問題もある。道路を拡張して避難道路にして、放射能が漏れた場合の北浦地区の避難道路として整備する必要があるのではないか。
- A. まず、仕事の話。各地沿岸部どう再生するかは、雇用の問題が重要である。まず養殖含めて東北大の研究所がある。いろんな研究プロジェクトを行っていくという話が進んでいる。個人的には、ナマコの養殖。また企業からタコの養殖を研究したいと言う話もいただいている。様々な展開が考えられる。マリンレジャーそういう観点で力を入れていきたい。レジャーで多くの人が訪れれば活力につながる。ヨットなどを持っている人はそれなりの資産を持っているし、ヨットなどをやる人からすれば魅力ある地形である。
- 道路の問題については、県が復旧を進めていくことになっているが、具体的な線を書いてみると言われている。勾配の問題などをクリアしつつ、こういった形になるか調整していきたい。避難道路としてなど、国の道路としてやるべき問題ではあるが、地元としての要望もしている。一番被災状況がひどいところは応急復旧で通しているが、こういう状況だからこそ、これを機に国道の線形変える場所もあると思う。
- Q. 震災直後は、色が全くなかった。だんだん復興してきた。町長の挨拶にもあったようにここまで頑張ってきたと思う。スケジュールについて質問だが、平成23年後半住民合意形成とある。これはA案、B案を決めなければならないのか。公営住宅建てた場合、入居の優先順位はどうなるのか。
- A. 大事な部分。まず高台移転にするかどうかという、基本的な方針を決めていただく必要がある。これがひとつ。さっき申し上げたのは、御前であれば（中心市街地と違い）浜の人が合意すれば事業が進められるので、あまり遅くならない、ということ。浜の皆さんについては（中心部か、浜に残るかの）選択の余地がある。A案かB案か方向性まで決めて頂けるとその後の検討作業が進められるので助かるが、今日で確定ということではない。3月までに事業計画などを国に認めてもらう必要があるため、どういう計画か決めなければならないが、皆さん話し合っって方向性を変えたいということ

があれば、3月以降でも変えることはできる。

- Q. 本気になってアンケートを採って、どれくらい土地を必要かなど精査して、A案B案を決めていただきたい。
- A. おっしゃるとおり。アンケートをして、皆さんの希望を聞いて検討していきたい。
- Q. わたしの母親は85歳で今仙台にいる。どうしても御前に戻りたいと言っている。年金暮らしではあるが、健康で養老院に行くというほどではない。そういった人は公営住宅に入れるのか。またはグループホームを利用できないかとも考えている。町ではグループホームを整備することは考えているもか。
- A. まず、公営住宅には入居可能。家賃低廉化事業というのがあり、年金暮らしの方などには配慮した家賃設定となる。ただし、将来町の財政がパンクしないように考えなければならない。グループホームは計画している。町中心部の熊野地区にいろいろな機能、病院や福祉施設。学校などを集約する。いろんな世代が交流し、活力を生み出す地区にする計画である。
- A. 自力再建できない人のための高台への公営住宅だが、希望があれば、戸建てではなく例えば長屋形式の集合住宅（にすることにより建設コストを抑え家賃を安くする）など、いろいろなアイデアが考えられる。高齢者の見守りなど将来の管理なども考えていただき、皆さんでどういう住宅が良いか考えていただきたい。
- Q. わたしは障害者の一人暮らしだが、これからも生まれた御前浜に暮らしたい。障害者が早めに公営住宅に入居できる制度などは考えているのか。
- A. 当然、配慮する。どういう風に順番に優先順位を決めるべきか、例えば集合住宅形式の1階部分は優先的にとか考えられるが、今後具体的に方法を決めていきたい。
- Q. 夜来てわかるとおおり、街灯もなく真っ暗だ。側溝とかも埋まったままだ。この辺の整備はいつやるのか。
- A. 漁港等の街灯については発注した。順次手は付けている。少なくとも幹線道路まで歩いていけるような明るさが必要で、それは優先的にやっている。国道の街灯については県がやるが、県も相当の被害箇所を抱えており、時間がかかってしまう部分があるのはご了承いただきたい。
- Q. 14日に町民課長と話をしたが、電球さえもらえれば着けることは可能といていた。
- A. 町民課長に話を聞いて確認したい。漁港についてだが、一番被害が少なかったのは御前浜だった。3年くらいで復旧したい。
- Q. 避難所が高台になくて危険だった。高台の住宅地は少し離れてしまうので、港近くの高台に避難所をつくってほしい。
- A. 国の中央防災会議において、徒歩で5分以内に避難できるようにすべきという方向性が提言された。国のメニューにも避難所を整備できる事業がある。場所についてはここがいいなど、皆さんのほうが一番わかっていると思うので、提案いただければやっていきたい。

- Q. A案、B案決めるのは地区の人たちで決めることだと思う。この間コンサルタントにアンケート案を持ってきてもらうと言う話もしていたが、いつの間にか町民全体の話になったようだ。アンケートを全体でやることはいいことだと思うが、話がちょっと変わってきたのか。
- A. アンケートで希望地をどこにするか質問したい。これまで住んでいた地区以外を希望する人もいる。各人がどこに希望するか、まずは全体で統一した形で希望を聞きたい。高台移転は町として考えていることで、希望地区の皆さんに聞くことは非常に重要であり、ご理解いただきたい。
- 同時に、何回も話し合いもさせていただきたい。全体の方向性が決まれば、その中で個別の話も聞いていきたい。アンケートに関わらず話し合っていきたい。
- Q. 御前浜は仮設住宅がないので皆バラバラに住んでいるので集まるのが大変。せっかく集まったのだから、ちょっと時間をもらってコンサルさんに個別にA案、B案の違いを教えてもらった上で、A案、B案どちらかを、手を挙げてもらい、決めたい。
- (5分ほど個別談話)
- Q. 復興委員としてはB案が良いと思う。多数決とりたい。A案賛成の人(→約5人挙手) B案賛成の人(→多数挙手)。B案のほうが多かったので、B案の方向で進めていきたい。
- A. B案で検討進めるというご要望ですので、こちらで見当を進めさせていただく。今日で終わりではなく、まずは方向性が定まった。これから具体的かつ実現性の高い案を作っていきたい。みんなの強力な意思がないと進められない。今後もよろしくお願ひしたい。

以 上